

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-208451

(43)Date of publication of application : 13.08.1996

(51)Int.Cl.

A61K 7/48

A61K 7/00

A61K 7/42

A61K 35/50

A61K 35/78

A61K 35/78

(21)Application number : 07-016902

(71)Applicant : KAO CORP

(22)Date of filing : 03.02.1995

(72)Inventor : AZUMA SEISHI
YADA YUKIHIRO
IMOKAWA GENJI
TAZAKI SHINICHI
SHINPOU TSUNEO

(54) SKIN-BEAUTIFYING AGENT MIXED WITH EXTRACT OF CRUDE MEDICINE FROM PLANT

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a skin-beautifying agent mixed with an extract of a crude medicine from a plant, in excellent skin-beautifying effects and in preventing and treating effects on spot/freckles caused by sunburn.

CONSTITUTION: This skin-beautifying agent contains one or more extracts of crude medicines from plants selected from TOHI (peel of *Citrus aurantium*), SIMOTUKE (inflorescence of *Filipendulaularia* M.), ORANNDAGARASHI (leaves and stems of *Nasturtium officinalis* R. Brown), BAKUMONNDYOU (root of *Ophiopogon japonicus*), KINA (bark of *Cinchona succirubra*) and comfrey as active ingredients. The skin-beautifying agent is further mixed with one or more of ascorbic acid, its derivatives and an extract of placenta.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 14.08.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 02.07.2002

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-208451

(43)公開日 平成8年(1996)8月13日

(51)Int.Cl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K	7/48			
	7/00	X		
		K		
		H		
	7/42			

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 9 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号	特願平7-16902	(71)出願人	000000918 花王株式会社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
(22)出願日	平成7年(1995)2月3日	(72)発明者	東 清史 栃木県宇都宮市雀の宮6-1-10 ささげ ハイツ205
		(72)発明者	矢田 幸博 栃木県芳賀郡二宮町久下田西1-115-1
		(72)発明者	芋川 玄爾 栃木県宇都宮市清原台6-31-22
		(74)代理人	弁理士 有賀 三幸 (外3名)

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 植物生薬抽出物配合美白剤

(57)【要約】

【構成】 トウヒ、シモツケ、オランダガラシ、バクモンドウ、キナ及びコンフリーから選ばれる植物生薬の抽出物の一種又は二種以上を有効成分として含有する美白剤、更にまた、これにアスコルビン酸もしくはその誘導体又は胎盤抽出物の一種又は二種以上を配合した美白剤。

【効果】 本発明の植物生薬抽出物を配合した美白剤は、優れた皮膚美白効果と日焼けによるシミ・ソバカスの予防及び治療効果を有する。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 トウヒ、シモツケ、オランダガラシ、バクモンドウ、キナ及びコンフリーから選ばれる植物生薬の抽出物の一種又は二種以上を有効成分として含有することを特徴とする美白剤。

【請求項 2】 下記成分 (A) 及び (B) ；

(A) トウヒ、シモツケ、オランダガラシ、バクモンドウ、キナ及びコンフリーから選ばれる植物生薬の抽出物の一種又は二種以上、

(B) アスコルビン酸もしくはその誘導体又は胎盤抽出物の一種又は二種以上を含有することを特徴とする美白剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は美白剤に関し、更に詳しくは、皮膚美白効果及びシミ、ソバカスの防止効果を有する美白剤に関する。

【0002】

【従来の技術】 皮膚のシミやソバカスは、一般に日光の紫外線暴露による刺激、ホルモンの異常又は遺伝的要素等によってメラノサイトが活性化され、その結果メラノサイトに合成されたメラニン色素が皮膚内に異常沈着することにより発生する。このようなシミ、ソバカスの治療には、従来、L-アスコルビン酸もしくはその誘導体、ハイドロキノン誘導体、コウジ酸もしくはその誘導体、胎盤抽出物等のメラニン抑制効果を有するものが使用されている。しかし、これらの物質はいずれも微弱なメラニン抑制効果しか示さないため、それぞれ単独で化粧料等に配合した場合、十分な美白効果及びシミ、ソバカス防止効果が得られなかった。そこで、優れた美白効果とシミ、ソバカス防止効果とをもたらす美白剤の開発が望まれていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従って、本発明は、優れた美白効果とシミ、ソバカス防止効果とを有する美白剤を提供することを目的とするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 かかる実情に鑑み、本発明者らは、鋭意検討した結果、後述する特定の植物生薬の抽出物を有効成分とする美白剤が、十分な美白効果とシミ、ソバカス防止効果とを示すこと、また、これにアスコルビン酸もしくはその誘導体又は胎盤抽出物を併用すると更に効果が向上することを見出し、本発明を完成するに至った。

【0005】 従って、本発明は、トウヒ、シモツケ、オランダガラシ、バクモンドウ、キナ及びコンフリーから選ばれる植物生薬の抽出物の一種又は二種以上を有効成分として含有することを特徴とする美白剤を提供するものである。

【0006】 更にまた、本発明は、下記成分 (A) 及び

(B) ；

(A) トウヒ、シモツケ、オランダガラシ、バクモンドウ、キナ及びコンフリーから選ばれる植物生薬の抽出物の一種又は二種以上、

(B) アスコルビン酸もしくはその誘導体又は胎盤抽出物の一種又は二種以上を含有することを特徴とする美白剤を提供するものである。

【0007】 本発明に使用される成分 (A) のトウヒ抽出物としては、トウヒ (*Cirtaus aurantium* Linne) の成熟した果皮を水又はエタノール、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール等の親水性有機溶媒又はこれらの混合溶媒で抽出して得られる抽出液、当該抽出液を乾燥して得られる乾燥粉末等が挙げられる。かかるトウヒ抽出物には、リモネン、ヘスペリジン、ネオヘスペリジン、ナリンギン等が一般に含まれている。

【0008】 トウヒの好ましい抽出方法としては、例えば次の方法が挙げられる。すなわち、トウヒの果皮を乾燥し、細切したものにエタノール/水混合溶媒を加え、時々攪拌しながら室温から 50℃ で浸漬した後、圧搾分離し、この抽出液を濾過してトウヒ抽出物とする。市販品としては、例えば「トウヒリキッド」(一丸ファルコス(株)製)が挙げられる。

【0009】 シモツケ抽出物としては、セイヨウナツユキソウ (*Filipendula ulmaria* M. (Rosaceae)) の花序を水又はプロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール等の親水性有機溶媒又はこれらの混合溶媒で抽出して得られる抽出液、当該抽出液を乾燥して得られる乾燥粉末等が挙げられる。かかるシモツケ抽出物には、スピラエオシド、タンニン、サリチル酸等が一般に含まれている。

【0010】 シモツケの好ましい抽出方法としては、例えば次の方法が挙げられる。すなわち、シモツケの花を乾燥し、細切したものにプロピレングリコール/水混合溶媒を加え、時々攪拌しながら室温から 50℃ で浸漬した後、圧搾分離し、この抽出液を濾過してシモツケ抽出物とする。市販品としては、例えば「フィテレン EG-213」(一丸ファルコス(株)製、固形分 0.60~1.20%) が挙げられる。

【0011】 オランダガラシ抽出物としては、オランダガラシ (*Nasturtium officinale* R. Brown (Cruciferae)) の葉茎又は全草を水又はエタノール、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール等の親水性有機溶媒又はこれらの混合溶媒で抽出して得られる抽出液、当該抽出液を乾燥して得られる乾燥粉末等が挙げられる。

【0012】 オランダガラシの好ましい抽出方法としては、例えば次の方法が挙げられる。すなわち、オランダガラシの葉を乾燥し、細切したものにプロピレングリコール/水混合溶媒を加え、時々攪拌しながら室温から 5

0℃で浸漬した後、圧搾分離し、この抽出液を濾過してオランダガラシ抽出物とする。市販品としては、例えば「フィテレンEG-224」（一丸ファルコス（株）製）が挙げられる。

【0013】バクモンドウ抽出物としては、ジャノヒゲ（*Ophionopogon japonicus* Ker. Gawler (Liliaceae)）の根の膨大部を、水又はエタノール、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール等の親水性有機溶媒又はこれらの混合溶媒で抽出して得られる抽出液、当該抽出液を乾燥して得られる乾燥粉末等が挙げられる。かかるバクモンドウ抽出物には、オヒオボゴニン、オイコミン、スキラスキリン、メチルオヒオボゴニンA等が一般に含まれている。

【0014】バクモンドウの好ましい抽出方法としては、例えば次の方法が挙げられる。すなわち、バクモンドウの根を乾燥し、細切したものにエタノール/水混合溶媒を加え、時々攪拌しながら室温から50℃で浸漬した後、圧搾分離し、この抽出液を濾過してバクモンドウ抽出物とする。市販品としては、例えば「バクモンドウエキスパウダー」（一丸ファルコス（株）製、粉末）が挙げられる。

【0015】キナ抽出物としては、キナノキ（*Cinchona succirubra* Pavon Klotzsch）又はその他同属植物（*Rubiaceae*）の樹皮を水又はエタノール、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール等の親水性有機溶媒又はこれらの混合溶媒で抽出して得られる抽出液、当該抽出液を乾燥して得られる乾燥粉末等が挙げられる。かかるキナ抽出物には、コンキナミン、ゴキンコニン、キニン、キンカミジン、スキルピン等が一般に含まれている。

【0016】キナの好ましい抽出方法としては、例えば次の方法が挙げられる。すなわち、キナの樹皮を乾燥し、細切したものにエタノール/水混合溶媒を加え、時々攪拌しながら室温から50℃で浸漬した後、圧搾分離し、この抽出液を濾過してキナ抽出物とする。市販品としては、例えば「キナ抽出液」（丸善製薬（株）製）が挙げられる。

【0017】コンフリー抽出物としては、ヒレハリソウ（*Symphytum officinale* L. (Boraginaceae)）の葉を水又はエタノール、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール等の親水性有機溶媒又はこれらの混合溶媒で抽出して得られる抽出液、当該抽出液を乾燥して得られる乾燥粉末等が挙げられる。かかるコンフリー抽出物には、コムソリジン、シノグロシン、アラントイン、タンニン等が一般に含まれている。

【0018】コンフリーの好ましい抽出方法としては、例えば次の方法が挙げられる。すなわち、ヒレハリソウの葉を乾燥し、細切したものにエタノール/水混合溶媒

を加え、時々攪拌しながら室温から50℃で浸漬した後、圧搾分離し、この抽出液を濾過してコンフリー抽出物とする。市販品としては、例えば「コンフリー抽出液」（丸善製薬（株）製、固形分0.6～1.6%）が挙げられる。

【0019】成分（A）は、これらの一種又は二種以上が本発明美白剤に配合される。

【0020】成分（A）の本発明美白剤への配合量は、固形分として0.00001～5重量%（以下、単に%と示す）、特に0.00005～1.0%とすると、十分な美白効果が得られ、また、製品の保存安定性においても優れるので好ましい。

【0021】本発明に使用される成分（B）のアスコルビン酸及びその誘導体としては、例えばL-アスコルビン酸リン酸エステル、1価金属塩であるL-アスコルビン酸リン酸エステルナトリウム塩、L-アスコルビン酸リン酸エステルカリウム塩、2価金属塩であるL-アスコルビン酸リン酸エステルマグネシウム塩、L-アスコルビン酸リン酸エステルカルシウム塩、3価金属塩であるL-アスコルビン酸リン酸エステルアルミニウム塩、また、L-アスコルビン酸硫酸エステル、1価金属塩であるL-アスコルビン酸硫酸エステルナトリウム塩、L-アスコルビン酸硫酸エステルカリウム塩、2価金属塩であるL-アスコルビン酸硫酸エステルマグネシウム塩、L-アスコルビン酸硫酸エステルカルシウム塩、3価金属塩であるL-アスコルビン酸硫酸エステルアルミニウム塩、そして、L-アスコルビンの1価金属塩であるL-アスコルビン酸ナトリウム塩、L-アスコルビン酸カリウム塩、2価金属塩であるL-アスコルビン酸マグネシウム塩、L-アスコルビン酸カルシウム塩、3価金属塩であるL-アスコルビン酸アルミニウム塩等が好ましいものとして挙げられる。

【0022】また、成分（B）の胎盤抽出物としては、ウシ、ブタ又はヒト等の哺乳動物の胎盤を洗浄、除血、破碎、凍結等の手段を経て、水溶性成分を抽出した後、更に不純物を除去して得られるものが挙げられる。これらは、水溶性プラセンタエキスとして一般に市販され、化粧品原料として使用されている。

【0023】成分（B）は、これらの一種又は二種以上が本発明美白剤に配合される。

【0024】成分（B）の本発明美白剤への配合量は、0.01～30%、特に0.1～10%とすると、十分な美白効果が得られ、保存安定性や使用感等に優れるので好ましい。

【0025】本発明の美白剤には、必要に応じ、本発明の効果を損なわない範囲において、上記必須成分の他に通常化粧品や医薬部外品、医薬品等に用いられる各種任意成分を必要に応じて適宜配合することができる。このような任意成分としては、例えば精製水、エタノール、油性物質、保湿剤、増粘剤、防腐剤、乳化剤、薬効成

分、粉体、紫外線吸収剤、色素、香料、乳化安定剤、pH調整剤等が挙げられる。

【0026】油性成分としては、例えば流動パラフィン、ワセリン、パラフィンワックス、スクワラン、ミツロウ、カルナウバロウ、オリーブ油、ラノリン、高級アルコール、脂肪酸、高級アルコールと脂肪酸の合成エステル油、シリコン油等が挙げられ、保湿剤としては、例えばソルビトール、キシリトール、グリセリン、マルチトール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、1,4-ブチレングリコール、ピロリドンカルボン酸ナトリウム、乳酸、乳酸ナトリウム、ポリオキシプロピレン脂肪酸エステル、ポリエチレングリコール等が挙げられ、増粘剤としては、例えばカルボキシビニルポリマー、カルボキシメチルセルロース、ポリビニルアルコール、カラギーナン、ゼラチン等の水溶性高分子、塩化ナトリウム、塩化カリウム等の電解質が挙げられ、防腐剤としては、例えば尿素、メチルパラベン、エチルパラベン、プロピルパラベン、ブチルパラベン、安息香酸ナトリウム等が挙げられ、乳化剤としては、例えばポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレンソルビトール脂肪酸エステル等の非イオン性界面活性剤が挙げられ、粉体としては、例えばタルク、セリサイト、マイカ、カオリン、シリカ、ベントナイト、パーミキュライト、亜鉛華、雲母、雲母チタン、酸化チタン、酸化マグネシウム、酸化ジルコニウム、硫酸バリウム、ベンガラ、酸化鉄、群青等が挙げられる。

【0027】本発明の美白剤は、常法に従って製造することができる。また、本発明の美白剤は、一般の皮膚化粧料に限定されるものではなく、医薬部外品、外用医薬品等を包含するものであり、その剤型も目的に応じて任意に選択することができ、クリーム状、軟膏状、乳液状、ローション状、溶液状、ゲル状、パック状、パウダー状、スティック状等とすることができる。

【0028】

【発明の効果】本発明の美白剤は、優れた皮膚の美白効果と日焼けによるシミ・ソバカスの予防及び治療効果を有する。

【0029】

【実施例】以下に本発明を実施例により具体的に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

【0030】(UV-B誘導色素斑に対する美白効果試験)被験者20名の上腕内側部にUV-B領域の紫外線を最小紅斑量の2倍量を1日1回2日間にわたり照射し誘導した色素斑に、1日2回、1ヶ月間被験部位に試料を連続塗布することにより美白効果を調べた。評価は、

色差計(村上色彩製CMS-1200)を用いて測定を行い、得られたマンセル値より L^* 値を算出し、その回復をあらわす $\Delta\Delta L^*$ 値を用いた。尚、 $\Delta\Delta L^*$ 値は以下のように定義した。試料塗布開始直前の試料塗布被験部位及び試料未塗布の被験部位の L^* をそれぞれ L_0 、 L_0' 、連続塗布1ヶ月後の各々の部位の L^* 値をそれぞれ L_1 、 L_1' として $\Delta\Delta L^*$ は以下の式であらわした。

$$\Delta\Delta L^* = (L_1 - L_0) - (L_1' - L_0')$$

評価は、被験者20名の表1に示す評価点で平均値を示した。

【0031】

【表1】

評価点	判定基準
5	1ヶ月後の色素斑の回復をあらわす $\Delta\Delta L^*$ 値が下式を満たす試料。 $1.0 \leq \Delta\Delta L^*$
4	$0.5 \leq \Delta\Delta L^* < 1.0$
3	$0.2 \leq \Delta\Delta L^* < 0.5$
2	$-0.2 \leq \Delta\Delta L^* < 0.2$
1	$\Delta\Delta L^* < -0.2$

【0032】実施例1

表2に示す美白成分と生薬抽出物を含有するクリーム(本発明品1~15及び比較品1~9)を下記方法により調製し、これについて連続塗布により美白効果を調べた。

【0033】

【表2】

成 分	配合量 (%)
モノステアリン酸グリセリル	5.0
モノステアリン酸ポリエチレン グリコール (エマノーン3199、花王社製)	2.0
スクワラン	8.0
トリオクタン酸グリセリル	8.0
ステアリルアルコール	5.5
ジメチルポリシロキサン (KF-96A(6cs)、信越化学工業 社製)	0.2
プロピレングリコール	5.0
エデト酸二ナトリウム	0.1
美白成分(表3)	表 3
生薬抽出物(表3)	表 3
クエン酸ナトリウム	1.0
イオン交換水	残 量
防腐剤	適 量
香 料	適 量

*【0034】(製法)油層成分を80℃で加熱溶解し攪拌しながら60℃に加熱した水層を加え乳化し、攪拌しながら室温まで冷却して調製する。

【0035】

【表3】

10

20

*

美白成分及び配合量 (%)				生薬抽出物及び配合量 * (%)		平均評価点
比 較 品	1	レ-アスコルビン酸リン酸エステルナトリウム	0.5	—	—	2.59
	2	レ-アスコルビン酸リン酸エステルナトリウム	1.0	—	—	2.77
	3	レ-アスコルビン酸リン酸エステルマグネシウム	1.0	—	—	2.71
	4	レ-アスコルビン酸リン酸エステルマグネシウム	3.0	—	—	2.82
	5	レ-アスコルビン酸リン酸エステルカルシウム	0.1	—	—	2.32
	6	レ-アスコルビン酸リン酸エステルカルシウム	5.0	—	—	2.96
	7	レ-アスコルビン酸	5.0	—	—	2.37
	8	牛胎盤抽出物 *1	1.0	—	—	2.44
	9	—	—	—	—	1.02
本 明 品	1	—	—	トウヒ*2	0.5	3.70
	2	—	—	シモツケ*3	0.1	3.56
	3	—	—	オランダガラシ*4	1.0	3.95
	4	—	—	バクモンドウ*5	0.01	3.42
	5	—	—	キナ*6	0.05	3.25
	6	—	—	コンフリー*7	0.001	3.22
	7	レ-アスコルビン酸リン酸エステルナトリウム	0.5	トウヒ*2	0.5	4.28
	8	レ-アスコルビン酸リン酸エステルナトリウム	1.0	シモツケ*3	0.1	4.16
	9	レ-アスコルビン酸リン酸エステルマグネシウム	1.0	オランダガラシ*4	1.0	4.57
	10	レ-アスコルビン酸リン酸エステルマグネシウム	3.0	バクモンドウ*5	0.01	4.05
	11	レ-アスコルビン酸リン酸エステルカルシウム	0.1	キナ*6	0.05	4.00
	12	レ-アスコルビン酸リン酸エステルカルシウム	5.0	コンフリー*7	0.001	4.19
	13	レ-アスコルビン酸	5.0	トウヒ*2	0.5	4.33
	14	牛胎盤抽出物 *1	1.0	シモツケ*3	0.1	4.27
	15	牛胎盤抽出物 *1	1.0	オランダガラシ*4	1.0	4.44

【0036】*: 生薬抽出物の配合量 (%) は各抽出物の固形含有分で示した。

*1: 牛胎盤抽出物 固形分 1.52w/v %。

*2: トウヒ 固形分 1.77w/v %。

*3: シモツケ 固形分 0.80w/v %。

*4: オランダガラシ 固形分 0.27w/v %。

*5: バクモンドウ 固形分 2.70w/v %。

*6: キナ 固形分 1.49w/v %。

*7:コンフリー 固形分 1.24w/v%。

【0037】表3に示す結果より、本発明の美白クリームは、特定の生薬抽出物を配合することにより皮膚美白効果を発揮し、更にアスコルビン酸誘導体又は胎盤抽出物を配合することにより美白効果が相乗的に向上して優れた美白効果が得られることがわかる。

【0038】実施例2（乳液）

*

*表4に組成を示す乳液を下記方法により調製した。

（製法）油層成分を80℃で加熱溶解し攪拌しながら、60℃に加熱した水層を加え乳化する。乳化終了後、攪拌しながら、室温まで冷却して調製する。

【0039】

【表4】

成 分	配合量 (%)
トリステアリン酸ポリオキシエチレンソルビタン （レオドールTW-S320、花王社製）	1.0
オレイン酸グリセリル	1.0
モノステアリン酸グリセリル	0.5
スクワラン	6.0
トリオクタン酸グリセリル	2.0
オクタン酸セチル	2.0
ステアリルアルコール	2.0
1,3-ブチレングリコール	3.0
グリセリン	1.0
キサンタンガム	0.2
エデト酸四ナトリウム	0.1
Ｌ-アスコルビン酸リン酸エステルマグネシウム	3.0
オランダガラシ ⁴⁴	0.001
クエン酸ナトリウム	0.5
イオン交換水	残 量
香 料	適 量
防腐剤	適 量

【0040】実施例3（エッセンス）

表5に組成を示すエッセンスを下記方法により調製した。

（製法）油層成分を80℃で加熱溶解し攪拌しながら、80℃に加熱した水層を加え乳化する。乳化終了後、攪拌しながら、室温まで冷却して調製する。

【0041】

【表5】

成 分	配合量 (%)
1, 3-ブチレングリコール	8. 0
グリセリン	4. 0
キサンタンガム	0. 3
コンドロイチン硫酸ナトリウム	0. 1
ヒアルロン酸ナトリウム	0. 05
エタノール	3. 0
ポリオキシエチレンポリオキシプロピレン デシルテトラデシルエーテル (NIKKOL PEN-4612、日光ケミカルズ社製)	2. 0
牛胎盤抽出物 ^{*1}	1. 0
トウヒ抽出物 ^{*2}	0. 00001
クエン酸	0. 15
クエン酸ナトリウム	0. 85
エデト酸四ナトリウム	0. 1
イオン交換水	残 量
香 料	適 量
防腐剤	適 量

*【0042】実施例4（ローション）

表6に組成を示すローションを下記方法により調製した。

（製法）配合成分を80℃で加熱溶解しながら攪拌する。系が均一になったら、攪拌しながら、室温まで冷却する。

【0043】

【表6】

*

成 分	配合量 (%)
1, 3-ブチレングリコール	8. 0
グリセリン	4. 0
ヒアルロン酸ナトリウム	0. 1
エタノール	3. 0
ポリオキシエチレンポリオキシプロピレン デシルテトラデシルエーテル (NIKKOL PEN-4612、日光ケミカルズ社製)	0. 3
牛胎盤抽出物 ^{*1}	1. 0
シモツケ抽出物 ^{*3}	0. 05
クエン酸ナトリウム	1. 0
エデト酸四ナトリウム	0. 1
イオン交換水	残 量
香 料	適 量
防腐剤	適 量

【0044】実施例5（パウダー）

表7に組成を示すパウダーを下記方法により調製した。

（製法）配合成分を均一に攪拌、混合して調製する。

【0045】

【表7】

成 分	配合量 (%)
Ｌ－アスコルビン酸リン酸エステルマグネシウム	30.0
バクモンドウ抽出物 ^{*5}	1.0
パルミチン酸セチル	12.0
水素添加大豆リン脂質	5.0
防腐剤	適量
香料	適量
D－マンニット	残量

【0046】実施例6（パック）

*冷却して調製する。

表8に組成を示すパックを下記方法により調製した。

【0047】

（製法）配合成分を均一に攪拌、混合した後、室温まで*

【表8】

成 分	配合量 (%)
ジプロピレングリコール	3.0
ポリエチレングリコール（平均分子量4000）	3.0
1,3-ブチレングリコール	1.0
グリセリン	2.0
ピロリドンカルボン酸ナトリウム	1.0
クエン酸ナトリウム	1.0
エデト酸二ナトリウム	0.1
キナ抽出物 ^{*6}	0.05
乳酸	0.5
ポリビニルアルコール （ゴーセノール BG-30、日本合成化学社製）	12.0
Ｌ－アスコルビン酸ナトリウム	2.0
ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンデシルテトラ デシルエーテル （NIKKOL PBN-4612、日光ケミカルズ社製）	0.3
防腐剤	適量
香料	適量
イオン交換水	残量

【0048】実施例7（クリーム状ファンデーション）

表9に組成を示すクリーム状ファンデーションを下記方法により調製した。

（製法）油相成分を80℃で加熱溶解した後、60℃で40
 加熱溶解した水相成分を油相に加え均一に攪拌混合して
 乳化して調製する。

【0049】

【表9】

成 分	配合量 (%)
ジメチルポリシロキサン (KF-96A(6cs)、信越化学工業社製)	10.0
メチルフェニルポリシロキサン (SF-557、東レ・ダウコーニング社製)	3.0
オクタメチルシクロテトラシロキサン (SH-244、東レシリコーン社製)	10.0
ポリオキシアルキレン変性シリコーン (SH-3775C、東レシリコーン社製)	5.0
酸化チタン	5.0
セリサイト	2.0
タルク	3.0
ベンガラ	0.4
酸化鉄黄	0.7
酸化鉄黒	0.1
グリセリン	5.0
エデト酸二ナトリウム	0.1
L-アスコルビン酸硫酸エステルナトリウム	2.0
クエン酸ナトリウム	1.0
コンフリー抽出物 ^{*7}	0.05
防腐剤	適量
香料	適量
イオン交換水	残量

*【0050】実施例2～7で得られた化粧料はいずれも十分な美白効果とシミ・ソバカスの予防及び治療効果とを示すものであった。

10

20

*

フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

FI

技術表示箇所

A61K 35/50

35/78

W

ADAC

(72)発明者 田崎 慎一

栃木県河内郡上三川町上蒲生2166 花王上
三川社宅1-106

(72)発明者 進邦 恒雄

千葉県松戸市根木内123-1 ライオンズ
マンション北小金206